

2019年 か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第19号 12月11日発行

三重県立津東高等学校

11月30日と12月1日の土・日に津市を中心に行われた全国人権・同和教育研究大会に行きました。全国から集まった人達の熱い想いに触れて感動し、力をいただきました。すべての差別に向き合うとき、どう自分事としていくのか?「しっかり自分を見つめていくこと、そしてそれを出し合っていくことしかない。」まさに教育のもとと感じられ、自分の中にずっとあった言葉でした。言葉は人を突き動かしてくれます。



ここにいくつかの言葉を載せます。心に刻んでみてください。

- 四葉のクローバーを見つけるために、三つ葉のクローバーを踏みにじってはいけない。幸せはそんな風に探すもんじゃありません。
- あなたが産まれたとき、周りの人は笑って、あなたは泣いていたでしょう。だからあなたが死にゆくときは、あなたが笑って、周りの人が泣くような人生をおくりなさい。
- お前が「つまらない」と言ってムダに過ごした今日は、昨日死んだ奴が一生懸命生きたかった明日なんだよ。
- 疑わずに最初の一段を登りなさい。階段のすべて見えなくてもいい。とにかく最初の一步を踏み出すのです。(キング牧師)

- かつてある新聞記者がマザー・テレサにこんな質問をしたそうです。「あなたがたったいま死にかけている人を助けて何になるのですか?この人は必ず死ぬのですから、そんなことをしても世の中は変わらないのではないのですか?」と。マザー・テレサは毅然としてこう答えられました。

「私たちは社会を変えようとしているのではありません。いま、目の前に飢えている人がいたら、その人の飢えを満たしてあげる。ただそれだけでいいのです。確かに、そのこと自体で世の中は変わらないでしょう。でも、目の前に渴いている人がいれば、その渴きを満たすために私たちはそのいのちに仕えていくのです」

目の前で「寂しい」「しんどい」と泣いている子供たちがいるのです。それは私たちにとってかけがえのないいのちであり、自分自身なのです。そのいのちにそっと寄り添い、時に抱きしめてあげるだけでよいのです。「人間は他のいのちに仕えるとき、自分のいのちが最も輝く」と思います。

- 「大切なのは、どれだけ多くをほどこしたかではなく、それをするのに、どれだけ多くの愛をこめたかです。大切なのは、どれだけ多くを与えたかではなく、それを与えることに、どれだけ愛をこめたかです」自分を見つめて、できる範囲で精一杯想いを込めて行動しましょう。「あなたは、あなたであればいい」のです。 *緑文字がマザー・テレサの言葉

